

次に大会の主目的であつた本部執行委員改選の結果を観るに、非乗務部からは

高橋藤藏(車庫部三田)

佐伯健(電気部赤坂)

河野平次(軌工部浜松)

熊本利男(工場部芝浦)

村内清作(電力部赤坂)

等東支内部に於て相当の経歴を持つ労働運動者によつて占められたのである。これに対し電車部からの選出委員を見るに、八名中七名迄は刷新協議会の幹部であつた者の中から左の如く選ばれた。

金井清(大塚車掌)

内海寅吉(早稲田車掌)

志倉朝次郎(新宿車掌)

槐清次郎(柳島車掌)

戸田武七(廣尾運転手)

掛札盛(綿糸堀車掌)

菊地兼治(赤坂運転手)

橋本三郎(青南運転手)

而して前執行委員長目黒留吉は電車部刷新協議会系、小林宗次郎と共に会計に就任し、執行委員長の重責には昨年の爭議調停委員会の従業員側委員として活躍した河野平次が選ばれた。

自動車部及新設せられた婦人部は不参加の爲、本部役員選出は保留の止むなきに至つて現任に及ぶ。

六 大会閉座以後今日に至る諸情勢(統一協議会及同小委員会)と従業員間に於ける左右両派の動靜

存亡の危機を経験した東交の大会以後今日に至る間の情勢を観るに、新本部は六月十七日、各支部宛に「大会の決定を全組合員に報告せよ」との題下に、

「臨時大会の最も重要な意義は東交の混乱無力化を清算し、陣容を強化することであつた」

「本部は今後凡ゆる問題を捉へて、電気局に対する闘争を最も果敢にせんとするものである。此のことこそ又現在のゆるんだ組織を強化し、不参加支部大衆をも東交に再組織し得る道であるのだ」

「不参加支部大衆に對しては、東交統一強化の爲、凡ゆる機会を捉へて働きかけること」を主張し、現本部成立の意義と任務を簡明徹底せしめ、全従業員の單一組合化を叫んでゐるのである。更に大会に於て決議した、藤田派との妥協促進のため、統一協議会の實現に務め、六月十六日早くも第一回協議会を開き進んで七月